


桜が満開を迎え、美しい季節になってきました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

安倍政権発足以来、アベノミクス、三本の矢、TPP関連のニュースが頻繁に新聞で取り上げられるようになりました。円安、株高は一部の間では歓迎されていますが、一方で庶民の生活は、所得に反映されない限り、さらに厳しくなっています。早くデフレから脱却し、国民の大多数の人に笑顔が戻ることを願っています。

昨年末の第 80 号 20 周年記念号発行後、新たな一步を踏み出す第 81 号会報をお送りします。皆さんの生活にスパイスが届けられれば幸いです。

目次

- 
- | | |
|----------------------|--------------|
| ・ 1月総会報告・会計報告 |P.2~3 |
| ・ 2月・3月例会報告 |P.4 |
| ・ 『井戸端だより』 デジタル化について |P.5 |
| ・ 平成 25 年第2回東温議会の傍聴 |P.5 |
| ・ 市議会を傍聴して |P.6 |
| ・ 『井戸端だより』 に出会って |P.7 |
| ・ 春の短歌6首 |P.8 |
| ・ 孫の成長 |P.9 |
| ・ 雑感 |P.10~15 |
| ・ 行ってみたタイ(バンコク・アユタヤ) |P.16~20 |
| ・ お知らせ・編集後記 |P.20 |



1月総会・会計報告

1月例会報告

くらしの学習会20周年記念「井戸端便り80号」発行にあたり、12/17(火)の発送まで忙しくしていたので暫くゆっくりする時間を取ることにし、1月22日(火)例年よりも少し遅めの1月例会になりました。

「井戸端だより80号」は、51号～80号の目次一覧の編集作業、写真部分の選別・構成など得意のパソコンを駆使し編集長のこだわりが詰まった20周年記念号の完成となりました。特に活動報告・カレンダーの写真に関しては、選択作業を綾町在住のOさんとのメールでのやり取り（井戸端だより80号編集後記にその大変さが書かれています）の賜物です。カラー写真のコピーは業者に依頼。目次一覧・原稿部分は12/11(火)川内公民館で印刷をし一部づつ手作業で組み立ててから、カラー写真のコピーと共に製本業者へ依頼。12/17(火)Hさん宅での発送作業をし、2012年の締めくくりとなりました。という訳で、忘年会・20周年記念のお祝いも兼ねて新年会はちょっとリッチな所だと、以前から行ってみたかった懐石料理「小椋」に予約をし、この日となりました。

参加者5名、Hさんの車で少し迷いながらも無事予約時間に到着。通された個室は食事スペースとソファースペースの2部屋続きでゆったりとした場所でした。ソファースペースで1月例会を実施、総会として2012年の会計報告・2013年の活動については、

*Hさんの仕事の関係で3月30日(土)まで別府に行くのでその流れで綾町へ出かけてはどうか？

*綾町と東温市の動植物の写真展をしてみてもは？

*現在会報担当はHさんとS. Kさんの二人で交互にしているのだが負担が重いので担当を増やせないか？

などの議題が上りました。具体的な内容は食事をしながら話し合うことにしました(料理はすべて写真に撮ってきました)

食事内容としては前菜（正月らしい細工が施された六品）椀もの（味噌仕立ての雑煮）お造り（寒ブリの三種盛り 大根細工の宝船に盛り付け）焼物（もち米の味噌焼きのあんかけ）蒸物（かぶら蒸し）中皿（柑橘の和風スフレ田作り添え）食事（鯉風味のお粥・漬物）抹茶とお菓子（栗入りコーヒーゼリー・鬼柚子の砂糖漬け）の八品でした。板長自ら料理について一品ごとに私達を和ませてくれる話術で説明をしていただきました。正月料理の華やかさと寒の時期らしい暖かな料理は気配りのある薄味で結構なお味でした。お造りに添えられていた大根のつまが甘みがあり瑞々しくとても美味しかったので、盛り付けられた大根細工の宝船の大根も同じ大根で作られたものだったので宝船まで食べてしまいました。近隣の農家から直接仕入れられた物だったそうです。献立は月替わりらしいので今回参加できなかったメンバーとも訪れる楽しみができました。

後日談として、Hさんが数日後に再度食事に行ったそうですが混んでいて、私達が総会をしたソファースペースに通され食事をしたそうです。しかし、先週こちらで食事をした事を伝えるとHさんだけお造りをヒラメの薄造りに変更してくれ、時間の都合でゆっくり出来ない方とゆっくりの方との時間を考慮し料理を運んでくれ皆さん大満足だったそうです。

議題については、綾町へ出かけることを前向きに計画することになり、2月例会時2月7日（木）に具体的な話し合いをすることになりました。

A. M

くらしの学習会会計報告(2012.1~12月)

収入の部(円)

前年度繰越金	120894
会費	34000
カンパ2名	6000
三ヶ村絵葉書カンパ	600
利子	9
	<hr/>
	161503

支出の部(円)

用紙代	1344
切手代	7930
封筒	198
コピー	100
80号記念誌分	
用紙A4白	1788
封筒両面テープ	826
80号記念誌一式	46400
切手代	5980
高速料金	2600
ガソリン代	1330
	<hr/>
	68496

差引 161503-68496=93007 次年度繰越金

2月例会報告

2月7日(木)10時からHさん宅で4名での例会となりました。まず綾町へ出かける事については、行きたいけれど体調の不安、家庭での諸事情などで参加ができなくなった人が多く、結局、Hさん・Tさんと私の3名での参加となりました。3月30日(土)31日(日)の2泊する予定で、宿泊場所の手配をし(3/30綾川荘・3/31綾の食卓)旅行計画については以前S.Kさんが作成してくれていた資料をそのまま使わせてもらうことにしました。これらの手配に時間を取られ、その他の話し合いができませんでした。 A.M



3月例会報告

3月4日(月)10時からHさん宅で6名での例会となりました。この日は珍しく参加者全員揃っての例会開始となり、Hさん手作りのアップルパイと紅茶でのティータイムから始まりました。

1月例会時に出た議題で「綾町と東温市の動植物の写真展」について話し合いました。この日に合わせたかのように綾町のOさんから鳥や木々の新芽をまとめた写真がメールで届いていたのを皆で見ながら様々な意見が出てきました。東温市在住で多くの動植物写真を撮っているOさんの話を聞き協力が得られるかも確認しなくてはなりません、とりあえず夏休み前半に中央公民館ロビーで実施できるよう今後活動をしていくことになりました。

4月例会は4月4日(木)近場でのお花見を予定をし、時間や場所については3月25日(月)井戸端便り81号を川内公民館で印刷をするのでこの日迄に具体的な事を決めることになりました。 A.M

井戸端だよりデジタル化

昨年末、80号20周年記念会誌をKさんが東温市立図書館に届けてくれた際、図書館の方から、会報『井戸端だより』及び冊子『蝶のくる庭』をデジタル化してみないかとお話をいただきました。図書館では、インターネット時代に対応する形で市民や利用者の利便性を高め、かつ資料の恒久的な保存を目指して郷土資料のデジタル化を行っているとのこと。郷土資料の一つとしてこの2点をデジタル化して、インターネット上に公開したいということでした。その後、図書館から正式な依頼書が届いたため、活動会員に打診したところ、会報『井戸端だより』については承諾、冊子『蝶のくる庭』については、まだ少しずつ売れているので、時期尚早との結論を得たので、早速図書館にその旨お伝えして、『井戸端だより』についての許諾書を提出しました。これにより、『井戸端だより』はデジタル化され恒久保存されるとともに、図書館ホームページで公開されることによって、世界中のだれでも閲覧でき、私的利用に限って、印刷も可能となります。ご理解のほど、お願いします。(T. H)

議会傍聴報告

平成 25 第2回東温議会の傍聴

春爛漫、日本の伝統行事ひな祭りが賑やかな3月 12 日、東温市役所の議場ひな壇に行政側 36 人の男性、議会サイドには、男性 16 人女性 2 人の異様なまでの男びな、行政も議員も男性社会が現状の東温市に、これでいいのだろうかと疑問を持った。

傍聴者が私とKさん二人だけ、一般の方々の無関心さにも淋しい思いがした。9時半から 12 時までの短時間だったので、佐伯正夫氏の防災対策と老朽化する道路について質問と市長と係の答えを聞いた。次に西山徹氏の生活保護について質問だった。東温市の生活保護家庭は、194 戸 254 人だという。生活実態や不正自給については、行政やケースワーカーが常に指導に当たっているようだ。

孫の話だと、修学旅行に行けない生徒や、給食費が払えない家もあるという。生活保護の家庭の子供だったらと思うと心が痛む。格差社会の問題は、奥が深い、目の前の苦しさに手を延べるのが、福祉の仕事ではなかろうか。(Sa. K.)

市議会を傍聴して

3月12日東温市議会一般質問の傍聴に行った。愛媛新聞社の女性記者一人が片隅でパソコンに向かっている。第1日目の質問者は6名、午前中3名の質疑を聞いたのは私達くらしの学習会の会員2名だけ。あまりにも寒々とした傍聴席だった。

議会事務局職員に「傍聴者が少ないですね。いつもこんなに状態ですか」と聞くと「日によって違います。近頃は家庭のパソコンで、公民館ではイントラネットで見られますからね」とのこと。その気になれば、見える機会が増えたと言う事はいいことだが、そのシステムを作ったからと言って大勢の人が見ているとは限らない。私達市民が市政に関心を持ち、各議員が市民の意見を代表して議会に臨み、市民と議員との繋がりを強めていけば、議会も活性化するように思う。

ある議員からは「ご苦勞さん、傍聴者がいると励みになる。もっと大勢の人に関心を持ってもらいたい」との声掛けがあった。

今回の市議会は昨年11月の議員改選後2度目の定例会。2月1日発行の議会だより28号には議会の人事・12月定例会一般質問等々が掲載されている。ベテランの議員は勿論7名の新議員の活躍を期待している。その中で最も若い新人議員の質問に注目した。初めての一般質問に立つとベテラン議員から「がんばれ」のエールが送られた。①東温市における生活保護の申請状況について ②公共スポーツ施設の改修に伴う住民への告知について だった。発声もよく、それぞれの質問内容もよく勉強されていると思った。

「議会だより」の腕章をつけた女性職員が議長席の後から何度も何度もフラッシュをたいて撮影しているのが気になって仕方なかった。 (S・K)

東温市 (12日・定例) 佐伯正夫、大西勉、西山徹、永井雅敏、酒井克雄(以上無所属) 森真一(共産)の6氏が一般質問した。

佐伯氏は2012年度に実施した市内公民館・集会所の耐震診断結果を質問。理事者は「旧耐震基準で設計された52棟のうち、41棟で耐震性が低いと判明。8棟は建て替え、33棟は補強工事が必要」と説明し、改修・建て替え時の市補助率(現在2分の1)の引き上げを検討中とした。

理事者は「資格取得助成金交付要綱を設け受講料などを補助し、計39人の防災士が誕生した」と説明し、今後、34自治区の各自防炎組織に最低1人以上を確保したいとした。

近藤、丹生谷両氏は通学路の安全対策をたじた。理事者は各小学校の通学路を再点検したところ「見通しが

永井、森岡氏は、11年10月から市内山間部で1日46便試験運行している生活バス路線の利用状況をたじた。理事者は、1月は1便平均2.4人で、増えていると報告。13年度運行結果の検証などを経て策定する地域公共交通活性化プランで、タクシー車両を定時・定路線・予約制で運行する公共交通も検討する意向を示した。

市タクシー連絡協議会と運行方法を研究するとしている。

防災士確保目標
自治区1人以上
理事者
東温市 (13日・定例) 松末博年、渡部伸二、丹生谷美雄(以上無所属) 近藤千枝美(公明)の4氏が一般質問した。

松末氏は、地域防災のリーダーとなる防災士の育成計画を質問。

理事者は「資格取得助成金交付要綱を設け受講料などを補助し、計39人の防災士が誕生した」と説明し、今後、34自治区の各自防炎組織に最低1人以上を確保したいとした。

近藤、丹生谷両氏は通学路の安全対策をたじた。理事者は各小学校の通学路を再点検したところ「見通しが

(愛媛新聞)

悪いなどの危険箇所は29カ所あったと答弁。1日現在、対策済み8カ所、2013年度実施予定8カ所、14年度以降実施予定2カ所、実施時期未定4カ所など説明した。

丹生谷氏は、交通安全基本法に基づく交通安全対策会議設置と交通安全計画の条例整備の意向を尋ねた。高須賀功市長は「市民の交通安全対策に必要と考えられる。条例制定と安全計画策定作業を進める」と述べた。

『井戸端だより』に出会って

「生れは岩国、育ちは京都、落ちつく先は東温市」と自己紹介をして来ました。

東温市の北山に蝸が鳴く季節が好きです。「井戸端だより第80号の20周年記念誌」を友人に見せてもらいました。七折れ梅まつりや西法寺の薄墨桜など美しい景色が見る者を喜ばせてくれました。

P.25に「新老人の会長であられる日野原先生が、毎月出される会報に、『101歳の誕生日に110歳を目指して頑張ります』又、『今迄沢山の方から受け取ったものばかりだったので、これからは恩恵を返すことに専念します』と記されていました。先生の生き方に感動しました (Sa.K.)」と書き写しておられます。「どんな終わりになるのか誰にも分かりませんが、その日その時に自分に出来ることを頑張り、それでも出来なくなった時は、一つ一つ神様に返して、憾みも嫉妬もなく、世話になる人に「ありがとう」が素直に言えるおばあちゃんになりたい」と (Sa.K.) さんのように思います。

P.36に (K.O.) さんが書いていることを私も同感で書かせて貰いました。

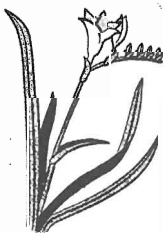
曰く「いまや店舗には日常的に、日本中、世界中の品々が並びます。温室効果ガスをまき散らしながら、飛行機で、船で、車で、運んできた品物です。それなのに、安易に捨てられる物が多いのが現状です。

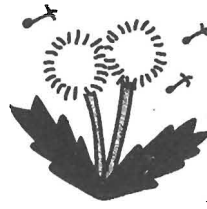
飽くなき探究心による研究の結果、現在、私達は信じられないほどの恩恵を受けています。しかし、もう、そろそろ満足してもよい時期が来ている様な気がしてなりません。今現在の恩恵に感謝し、充足させる時だと思えます。自分で歩くことが出来る範囲で、必要最低限の生活が完結できる社会こそが人間らしく生きていける社会だと思えます。」

そうなんだ、同感、(K.O.) さん！井戸端だよりは井戸端でなく議会の壇上であると思えます。(終)

2013.2.14

(M.H.)





ベニシジミ黄なるカタバミ道端に見付けギサギリ喜びの在る

山畑の隅に抜かれた夫根の起きたる花に蝶の静まる

春の野辺河辺に柳菜の花やレンゲに霞む通路陽炎よ

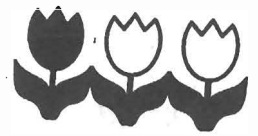
白き花タンポポの実は落下傘春風に乗り天空と舞ふ

古来より白きタンポポ駆逐され黄色なる花洋タンポポに

白蝶はカンラン畑に忙しげ跳んで産んで遣る方も無し

(A・N)





孫の成長

だんご3兄弟の歌が町かどに流れていた時と同じに、我が家でも2年おきに3人の孫が授かり、男の子ばかりだったので蹴る殴るの大騒ぎで泣き声が絶えることがなかった。

なんとかなるもので今では、高1、中1、小5と家が狭すぎる程に成長した。でも、三人三様で体格も性格も能力も、それぞれが持って生まれたものがあり、金子みすずの詩に「みんな違ってみんないい」の通りである。

長男は、6人（両親、祖父母4人）に泣き声を聞く事がない位に育てられ、甘えん坊であるが、学校でも地域の人々にも親切で、皆から「あんないい子はいないよ」と誉めてもらえる。物心ついた頃から、おもちゃも絵本も乗物ばかりで、2部屋にプラレールを敷きつめ、電車の国に入った遊びばかりだった。

お陰で我が家の新築の畳も、あつと言う間に擦り切れてしまった。それでも文句も言わず遊ばせたのは、孫可愛さからだったのだろう。

今では将来の仕事はJRの運転手になる事を夢みて、東京にある鉄道学校を受験すると勉強に行動に頑張っている。「新幹線の運転手になったら家族を乗せて走る」と言っているので、私もそこ迄長生きしたいと思っている。

次男は、長男にも手がいる頃に生まれたので、寝る子は育つ、の言葉通り、あまり手がかからなかったが、8ヶ月位から歩きだし、足が強くなると、何処へでも走って行き追っかけるのに苦労した。家の鍵を全部しめたつもりが、裏戸から出て大きな道路をすたすた渡り向い側の人に連れて来てもらったのには冷汗をかいた覚えがある。3歳迄言葉が出ず、言語障害だと医者に連れて言ったりしたが今では理屈屋でなかなか弁舌家である。

息子の家族と少し離れて我が家はあるが、毎晩訪ねて来て、英会話を一緒に聞き、亡き夫に話し掛けてくれる。私の思い出話で「ばあちゃんは生まれた時、臍の緒を首へ巻き死んだような状態だったけど、産婆さんが逆さにして背中を叩いたら生き返ったそうよ」と話すと、「よかった。その時生き返らなかったら、お父さんも僕も生まれてない」と感心して、命についての話し合いも出来た。

今はまだ将来について決めた夢もない様だが、自分の好きな仕事に進んで欲しいと思っている。

3男は「お母さんが3人も産むから僕は損ばかりする」と言う位、おもちゃはとられ、いじめられて泣くばかりで育った。5年生の1学期の通信簿の点数が悪く、母親から「2学期も同じだったら、ゲームもゴルフもスイミングも止めさす」と言われていたので2学期の通信簿をもらった途端に涙があふれ一人で泣いたという。先生も友達も、「どうしたん」と笑ったそうだが、誰も嬉し涙だと知るはずもない。

夫が亡くなった時も泣いたのは3男だけ。涙は心を表す大切なものだと話し合った。私の命もあと10年と思っているので、孫達の10年後が楽しみである。 (Sa・K)



雑感

立春に吹き荒れた春一番。畔焼きの済んだ土手にはナノハナが咲き始め、今年初めてのキチヨウに出逢いました。黒く焼けた草の陰では濃い紫色のスミレも咲き始めていました。

冬が終わり寒さから解き放たれた小鳥たちが囀り始める日、とも言われるセント・バレンタインデー。我が家の周りでも多くの鳥たちの姿が見られ、少しずつ名前も判るようになってきました。

そんな穏やかで暖かい春の陽射しの中、観光地として日本人に馴染の深いグアムで無差別通り魔殺傷事件のニュースが飛び込んできました。多数の日本人が犠牲になりました。1月にアルジェリアでおきたテロ事件の記憶が新しいこの時期に再び海外での事件です。

どちらの事件も日本人が巻き込まれた、というより標的になったとの見方が濃厚です。日本人の海外での言動が現地の人達にとって不愉快な点があるとすれば大いに反省しなくてはならないでしょう。

翌 15 日にはロシアで隕石落下による甚大な被害がおきました。16 日未明には小惑星が地球に最接近するというニュースが流れていました。一瞬間違って惑星が地球に衝突したのかとさえ思いました。

自然界のことは人間にとって解明できていない部分が如何に多いかを思い知らされました。謙虚にならなければ、と思います。

昨年 12 月 2 日に起きた中央自動車道笹子トンネル(山梨県)の天井板落下による痛ましい事故から 3 ヶ月余、漸く 2 月 8 日に上下線全面復旧の運びとなりました。

何故、これほどまでに時間がかかるのか不思議に思っていましたが、何と建設当時の図面が 1 枚しか残っていなかったということです。普通、同程度の構造物には 200~300 枚の図面が存在するそうです。それが 1 枚しか存在していなかったため、復旧工事には当時の図面を復元することから始めなくてはなりませんでした。

うっかり、紛失してしまった訳ではないのです。建設当時、保守点検という概念は希薄というより皆無だったと言います。一般的には空調の為の排気、吸気の小さなトンネルをトンネル本体に沿う様に作る筈のものも、予算削減の為とてつもなく大きなトンネルを作りその天井部を釣天井で仕切り、それを左右に分けて排気、吸気ダクトにしたのです。予算は大幅に削減されましたが、保守点検はほぼ不可能な構造になってしまいました。

作ったものは必ず老朽化し、修理が必要になる、そんな素人にも判る様な基本が見失われていたのです。

これは、笹子トンネルに限ったことでは無く、このような、杜撰な考え方のもとに作られた構造物は日本中にあふれているとか。呆れるばかりです。

東北地方太平洋沖地震とそれによって引き起こされた大津波によって甚大な被害をもたらした東日本大震災、その翌日、東北地方太平洋沖地震によって誘発された長野県北部地震から二年が過ぎました。長野県北部地震は東日本大震災の陰に隠れて、その存在すら忘れられていたような二年間でした。

どちらも、人口流出による高齢化、過疎化が追い打ちをかけ、まだまだ復興には程遠いのが現状です。

それでなくても冬は厳しい寒さの土地で、今年の様な記録的な大雪や強風の中、仮設住宅で二度目の冬を過ごされた方達の苦労を思うと、いたたまれない気持ちになります。

東京電力福島第一原発の事故さえ無かったら、もっと速やかに東日本全体の復旧、復興の為の作業が円滑に出来たと思えてなりません。

水素爆発による原発の損壊は激しく、特に炉心溶融を起こした1号機から3号機（1号機と2号機に至っては炉心溶融貫通の可能性さえ指摘されています）は放射線量が高いため、ごく最近になるまで内部の状況を垣間見ることすら出来ませんでした。4号機は定期点検中であったことから炉心溶融こそ有りませんでした。水素爆発によって大きく破損し倒壊の恐

れもあるため、冷却の為に核燃料プールに保管されている使用済み燃料を取り出し、敷地内の共用プールに移すことが急務です。しかし、既に、共用プールの収容量は 93%に達している為、共用プールで充分冷却された 2500 体の核燃料を取り出し、乾式キャスクという鋼鉄製の容器に入れ仮保管し、スペースを開ける必要に迫られています。この作業は 4 月から始まるとのことです。あまりにも遅いとは思いますが、順調に進むことを祈るばかりです。

その間にも、汚染された冷却水や地下水漏出によるとされる汚染水は増え続け貯蔵タンクの置き場が無くなるのも時間の問題だと言われています。

専用港内の海水の汚染も、一定レベル以下には減少しない状況が続いています。潮の満ち干によって相当量の海水が循環するため、一定レベルの汚染がこれほど長期間続くということは、事故当時想像を絶する高レベルの汚染があったと専門家は推測しています。

除染も進んでいません。そもそも、除染は可能なのでしょうか。高校の時教わった、“質量保存の法則”という言葉が重く心にひっかかります。どこかに移るだけで、無くなることはないのです。ただただ、保管中にトラブルが無いことを祈りながら半減期を待つしかありません。

“住民の動揺を考慮して”事故当時の被曝線量すら測定されませんでしたし、低線量被曝の影響も判らないと言います。広島に原爆が投下された直後、京都大学医学部が調査に入り様々なデータを収集しました。そのデータはアメリカに押収されましたが、敗戦国でありアメリカの占領下にあった日本では致し方なかったことであろうとは思いますが、その貴重なデータはアメリカには存在する筈です。その後も、ビキニでの核実験による第五福竜丸の乗船員の被爆、スリーマイルやチェルノブイリの原発事故の際のデータは存在する筈です。活用すべきです。

被曝線量に安全な下限値は無い、というチェルノブイリ原発事故当時のベラルーシの物理学者の言葉が頭から離れません。事故当初は旧ソ連の連邦政府の統制により、殆どの情報が機密扱いで表に出ることは有りませんでした。ソ連崩壊後、独立したベラルーシでは“チェルノブイリ法”が

制定され、避難区域が解除された後にも、住民の移住権が認められ、年間1～5ミリシーベルトの汚染地区の住民に対しては、移住後の住居や職場が政府によって保障されました。今の日本では年間20ミリシーベルト以下の移住権は考えられていません。

福島県双葉郡に住み続けている女性の、「出来もしない除染に多額のお金をかけ、住民にいつまでも中途半端な希望を持たせないで欲しい。駄目なことは駄目だとはっきり言って欲しい。汚染物質を日本中に広げず、双葉郡を核の墓場にして欲しい。」という言葉が胸に突き刺さります。

この原稿を書いている3月18日、福島第一原発で停電が発生し、1, 3, 4号機の使用済み核燃料プールの冷却装置が停止しました。3月19日正午現在、水温は16℃～30℃で安定しているとのことですが、共用プールを含む冷却システムは復旧しておらず、原因も特定できませんでした。このまま冷却できない状態が続くと、数日中にも、危険とされている65℃に達することが予測され、非常に心配されました。3月20日未明、全ての冷却システムは復旧したとのことですが、原因は未だ解明されていません。鼠らしき小動物が配電盤に入り込んでショートしたのではないかと、言われています。お粗末です。そもそも、2年経過した今も、屋外に設置した仮設の配電盤を使用していたということです。3月末に、屋内の本格的な配電盤に取り換えようとしていた矢先に起きた事故でした。今回の停電騒動で、まだまだ福島第一原発は危険の真ただ中に有る、ということを改めて思い知らされました。

事故が起これば、修理も儘ならない。正常に稼働していても、処分出来ない核廃棄物を産み出し続ける。こんな怪物のような原発が54基も存在するのです。怖いと思います。

昨年末の総選挙で自民党政権となり、脱原発がどんどん遠ざかり再稼働へ動いている様子に不信感を募らせています。

安倍総理は「安全と認められた場合に再稼働を進める。2030年代に原発稼働ゼロを可能にするという前政権の方針はゼロベースで見直す」(3月6

日 参議院本会議)と言いつつ切っています。最終処分の方法すら確立していない使用済み核廃棄物。何を以て“安全”と言うつもりなのでしょう。

自民党が長年に亘って推進してきた原発。後始末もきちんとして欲しいものです。

自民党は、2009年の第45回衆議院議員総選挙で大敗した時より少ない得票数でありながら、今回は大勝という摩訶不思議な選挙結果ですが、実体の解らないアベノミクス人気で高い内閣支持率を保っています。一票の格差の違憲判決など、どこ吹く風、です。春闘も、ほぼ満額回答、大企業の中には、賞与だけでなく昇給するところも出てきましたし、今の所、株価は上昇し、円安も維持しています。

自民党が政権をとることが、大企業および諸外国に好感されていることは事実のようです。

そんな高い支持率の下、安倍総理は TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) 交渉参加を決めました。交渉に参加しなければ交渉内容は明らかにされない、交渉参加を表明してもすでに交渉に参加している国の賛同を得なければ参加できない、等、不可解な点も多い TPP です。安倍総理は「聖域なき関税撤廃が前提ではないことが明確になった。日本の農業、医療は守る。それが出来なければ、交渉から離脱する。」としていますが、農業が基幹産業である宮崎県は不安で揺れています。私には TPP に参加することが日本にとって良いことか否かは判りません。しかし、地球温暖化が事実であるのなら、その温暖化の原因が化石燃料による温室効果ガスであるというのが真実であるのなら、様々な製品を今以上に輸入し、輸出するのは如何なものかと考えます。お金でどうにかなるものではないとは思いますが、遠くから運ばれた物には、せめてその距離相応 (国内の輸送も例外ではありません) の環境税を課すべき、と思います。

徒歩移動可能圏内で必要最低限の生活が成り立つことこそが、環境にも優しく、災害時にも強い社会だと思えてなりません。

武器輸出三原則も骨抜きになりましたし、集団的自衛権の行使にも言及している安倍政権が、今のまま高い支持率を保って、夏に行われるという参議院議員選挙で再び自民党が大勝するようなことが有れば、憲法が改定



されるのは必至と思われ、それがとても心配です。

綾溪谷は山桜の薄紅色に染まり、町花イワツツジも満開です。

畔焼きで黒く焦げていた綾南川の土手はすっかり緑で覆われ、ナノハナ、ハマダイコン、ムラサキケマン、ムラサキサギゴケ、キツネノボタン、キランソウ、スミレが咲き乱れ、イタドリ、ワラビも顔を出しています。

裏の木立も次々に芽吹き、柔らかい葉を風にそよがせています。ドンダリ、クスノキ、アケビ、ウツギ、ヤツデ、フジ、テイカカツラ、アカザ、その他名前の判らない沢山の樹木の根元にはジャニンジン、イヌガラシ、ムラサキケマン、タネツケバナ、キュウリグサ、ノアザミなどがひっそりと咲き、沢山の小さな虫たちが忙しそうです。木々も小さな花を付け、梅の花が終わった後、クスノキの花にメジロが群がっていました。スジグロシロチョウ、ツマグロキチョウ、ツマグロヒョウモンなどの蝶も多く見られるようになりました。先日はツマキチョウにも出逢いました。

異常に茎の太いカラスノエンドウに目を凝らすと、太い茎だったのではなく、茎にアブラムシがびっしりと付いて、そこに、ナナホシテントウムシの幼虫が群がっていました。

春の息吹を感じます。生命が動き始めています。

ただ、葉が繁ったので鳥の姿は見えにくくなってきました。ウグイスを始めとする沢山の鳥の囀りは、とても賑やかです。どんな鳥なのか知りたくて、庭の隅に餌場を作りたい、という誘惑にかられます。でも、この狭い範囲の食物連鎖を乱すかもしれない、と、我慢の日が続きました。せめてお喋りを録音したくて、私のエプロンのポケットにはコンパクトデジカメに加えてボイスレコーダーが仲間入りしました。先日、録音状態を確認する為に再生したところ、鳥たちが吃驚したように右往左往し、枝を揺らし始めました。ごめんなさい。再生は屋内で低音量！と大反省です。

餌場は作らず、ひたすら邪魔をしない様にそっと見ていようと思っています。来てくれるだけで幸せなことです。毎日、何度もやって来て、すっかりお馴染みになったジョウビタキとの別れの季節が近づいてきました。秋に再会できる日を楽しみに待つことにします。(K.O.)

行ってみたタイ (バンコク・アユタヤ)

3月12日夜うちを出て、タイへの旅に出た。今回は、タイ・バンコクで開催される日本語教育研究会に参加するのを主な目的として、その前後観光するというものである。今回は出かける2日前にスーツケースを関空宛送っておいたので、身軽で楽だった。空港でスーツケースを受取り(幸いチャイナエアの隣)、13日午前10:00発のチャイナエアラインに順調に乗りこむことができた。

タイに7年住んでいたことのある日本語仲間Yさんが一緒に、彼女が飛行機、ホテル、その他の予約、スケジュール管理をすべて引き受けてくれたので、本当に大船に乗った気分だった。順調に台湾台北経由で、タイの首都バンコクに現地時間午後4時45分着(日本との時差-2時間)。むっとした暑さを感じる。日本円をタイのバーツに両替。Yさんに財布も管理してもらうため、1万バーツ(1バーツ≒3円)ずつ出しあい、同じ財布から必要経費をすべて支出してもらうことにした。

タクシーでホテルへ。ボーイたちの合掌の挨拶に感激!部屋に荷物を置き身軽になって、初日の唯一の予定であるYさんのタイ時代の日本語関係のお友達と現地で有名なタイ料理のお店(トンクルアン)で食事をするために出かけた。ホテルから歩いても行ける距離だったが、約束の時間に送れそうだったので、やっと来たタクシーに飛び乗り、約束の時間を少し遅れて到着。お店はタイ人、多国籍人でほぼ満席だった。タイで日本語を勉強するタイ人学生のホームステイ受け入れをする担当をされていて、大学の付属小中学校で日本語を教えているという初対面のOさんと、冷たいタイブランドのシンハビールで乾杯!長旅の後のビールの何とおいしいこと!空芯菜のニンニク炒めやトムヤンクン、豚肉の料理など、どれもおいしかった。タイのビールとおいしいタイ料理、温かい人が、大歓迎で私のタイ滞在を受け入れてくれたように感じた。

今回の旅で、私は一つの課題をもってタイにやってきた。普通旅行をするとき、パソコンは持ってこないようにしているのだが、今回は今年初めに還暦祝いで買ってもらったタブレット(ギャラクシー)を持ってきたのである。時代の最先端に行く軽くて便利なタブレットを単なる「板」ではなく、有能な旅のアシスタントとしてタイで使いこなすぞ!と意気込んでいた。そのために、事前に、詳しい友だちにプライベート講習会をしてもらい、また購入したdocomoショップでもわからないことを教えてもらい、タイ行きに備えた。タイはdocomoのタブレットのカバーする範囲ではないが、ホテルに無線ランがあれば、その設定に切り替えて使えるので大丈夫だと言われていた。夫も全面的に協力してくれ、もし無線ではなく有線ならと、ランとタブレットをつなぐ部品も手

に入れてくれていたので、自信を持って出かけたのである。ところが！一日目の宴会が終わって、ホテルについて、ワクワクしながらタブレットを取り出し、言われた手順通りしたにもかかわらず、ホテルのネットには接続できたと表示されるのに、ホテルから提供されたIDやパスワードを入れる画面が出てこない。接続の際、パスワードが必要なら、鍵マークが出るはずなのに、そのマークも出てこない。Yさんのパソコンは無線ランとつながって使えるのに……。がっかりだった。私のタブレットはただの「板」のままだった。もちろんパソコンとして、カメラとしては使えるが、インターネットが使えない。目的としていたメールも見られないし、送れない。Yさんのパソコンを借りて、夫にこの状況を知らせた。ちょっとがっかりだったが、まだ諦められない気持ちだった。部屋のテレビでNHKの放送が見られるのは嬉しかった（朝ドラ、ニュース）。

Yさんはタイ滞在中の時間を有効に使うため、貸し切りの車を準備してくれていた。

2日目、6時45分にホテルのバイキング朝食をしっかりと取った後、7時40分迎えに来てくれていたワンボックスカーで水上マーケットの船乗り場へ。車の運転手はとても感じのいい人で、Yさんとは旧知、タイ語で話しながら、道順や予定を考えてくれる。

水上マーケットとは、水路の両端に並んでいるさまざまな物を売っている店で、ところどころ店の広場のようなところもある。水路を舟で行くのだが、これが二人で乗ったからか、モーター付きだったからか、タイの物価から考えたら、異常に高かった（3000バーツ）。船頭さんも、すれちがう舟が来ないと見ると、人格が変わったように猛スピードを出すので、こわかった。その上、濁った汚い水がかかって気持ちのいいものではなかった。そんなこんなで、水上マーケットとはこんなものかという見物程度で、買い物は、日本で買うと大変高いサフランを一袋買ったのみだった。

舟を下りて、スーパーのフードコートでタイラーメンを食べた。フードコートでは食事カードを事前に買う。魚のすり身の団子を入れたシンプルなラーメンを食べたが、美味しかった。それに、甘い紅茶？を飲んだ。食事カードは残高を払い戻してもらえる。午後は、タイへ来た人なら必ず行くという3つのお寺に行った。まず、王宮・ワットプラケオ。王室管理の寺院、宮殿への入場の際には服装検査がある。肌の露出度の多い服の人には服を貸してくれる。本堂のエメラルド寺院には高さ66センチの小さなエメラルド仏が金箔で覆われた木彫りのタイ様式の須弥壇に安置されている。年3回王様自らの手で衣替えがなされると言う。タイの近代国家としての確立に尽力したという「王様と私」（タイでは上映禁止）で有名なラーマ5世以降の歴代国王が住居とした宮殿は、現役の迎賓館なので立ち入り禁止。大英帝国のヴィクトリア様式にタイ式の尖塔をのせた独特の折衷型のチャクリー宮殿前では衛兵が微動だにせず立っている。遠慮がちに記

念撮影。日本の寺院のイメージと大いに異なり、華やかで煌びやかな寺院だった。

次に訪れたワット・ポーも金ピカの巨大寝釈迦仏が有名な寺院で、日本で見る仏像のシリアスな表情とは違い、ニヤッと笑っているように見える。足裏の長さが5mというから、大きさがわかるというものだ、足裏には真珠母貝を用いた精巧な螺鈿細工の模様は施されている。ワット・アルンへは、渡し船でチャオプラヤー川を横断して行く。暁（アルン）の寺（ワット）と言われるこの寺院は、仏塔の表面にびっしり埋め込まれた陶磁器の断片に日の出の陽光が反射することで対岸から望むと神々しい輝きを放ちだすことに由来する。何段も階段を上がっていくと、四方バンコクのそれぞれ異なった景色が見えて素晴らしい。タイの観光地を満喫してホテルに戻る。

夜は、Yさんの大学時代の親友Mさん、タイ時代の友人JさんとMKというタイすき焼きの店で大宴会。ビールで乾杯。野菜、ビーフン、魚のつくね等を鍋で煮て、特製の辛いすき焼きのたれをつけていただく。おいしかった。4人ともお酒が飲める口なので、ビールが何本も空いた。Mさんが心身ともに疲れ果てた時、Yさんがバンコクへ来るように誘ったという。Mさんはほほ笑みの国タイで癒されて元気になったそうだ。Jさんはバリバリ働いているキャリアウーマン。子育ての問題、生き方など全く初対面の人間がここまで色々深い話をバンコクの地でできたことに驚くとともに、本当に嬉しかった。そのあと、屋外バーでまたワイン2本を空け、さらに盛り上がり、再会を約して別れた。別れがたく去りがたく、何故このようなことになったのか、理由はよくわからないが、波長があったのかもしれない。

実はこの日MKへ行く前に、ホテルの部屋の無線ランがいけないのかもしれないと考え、一般の店で設定なしで無線ランが使えるところへ、ギャラクシーを持って行って試してみたが、やはりダメだった。無線ランの問題ではなく、ギャクシーの方の問題だということがはっきりしたので、完全に諦めてこの日以降ギャラクシーはただの板としてスーツケースの奥にしまってしまった。残念無念！！

15日は、朝8時20分に前の日と同じドライバーの車でアユタヤへ。バンコクから1時間半の世界遺産アユタヤはタイの古都。1351年にアユタヤ朝が開かれ、400年を超える栄華の時代を築いてきたが、宿敵ビルマ軍の総攻撃を受け、1767年に歴史の幕を下ろす。ワット・プラ・マハタートには木の根元に埋め込まれた仏像の顔がある。ビルマ軍によって激しく破壊されたあとが痛々しい。ワット・ヤイ・チャイ・モンコンには高さ72mの仏塔があり、その階段は1段ずつがとても高く大変だったが、上ってみた。塔の中の天井が木製、真ん中に井戸のようなものがあった。仏像が3体あった。

初めて象に乗った。象の背に二人乗りの籠が乗っていて、そこに同じ高さに組まれた

橋から乗るのだが、スリルがあった。15分間1人400バーツ。タイに7年滞在したことのあるYさんも初体験だという。ゆったりと歩く象の背中に乗って、アユタヤの遺跡群を回る体験も面白かった。象の目のやさしいこと。撮ってももらった写真も300バーツで買うことにした。一生に一度の経験になるだろう。

アユタヤを2時ごろ出て、ホテルに戻る。まず早稲田のT先生をバンコクの日本語教育界の元締めでもあるF先生の素敵なお宅へお迎えに行く。それから、晩の夕食をアレンジしてくださっているYさんのお友達Kさん（日本語教師）を途中で拾い、私をこの旅に誘ってくれた大学の同僚Iさん（彼女は、私たちより一足先に11日にタイ入りし、チェンマイで3日過ごしていた）が、この日バンコクに移ってきたので、ドンムアン空港へ迎えにいき、総勢6名で川べりのレストランへ繰り出した。駐車場からそのレストランまで、バイクの背に一人、付属した荷台に5人乗り運んでもらった。川辺のレストランは雰囲気抜群、素敵だった。再会を祝して、もちろんシンハビールで乾杯。牡蠣のオムレツ、魚のからあげ、鳥の手羽先の料理、トムヤンクンなど、どれもおいしかった。夜遅くまで盛り上がり、ホテルに戻ったのは12時頃だった。

16日は朝から日本語教育研究会年次セミナー会場へ。タクシーでIさんを迎えに行き、会場であるサーミットタワーへ。早稲田の小林ミナ先生が基調講演。実はこの先生とは科研費のプロジェクトでご一緒し、教材作りに従事していたが、今年初め個人的な事情で脱退したため、一度ご挨拶をしなければと思っていたので、今回いい機会だった。昼は、近くのタイ人がよく行くタイ料理の店へ。安くておいしかった。タイの日本語関係の先生方ともお話しができた。五行詩を広めているO先生は、10月松山の大会に来られるという。午後は分科会。終了後、体調が思わしくないIさんをタクシーで送り、初めて高架鉄道BTSに乗って戻った。丁度午後6時の国歌を流す時間で、タイ人が足を止めて聞くのを見た。懇親会会場に少し遅れて行った。狭い会場に多くの日本語関係者が集い、話すことができた。地域の日本語を研究している池上先生とも親しくお話しし、松山に研修会講師として来てくださるという約束を取り付けた。疑問に思っていたタイの徴兵制度は、全員ではなく抽選で当たった人のみだということも分かった。またニューハーフが市民権を得ているタイの戸籍上の性転換はできないということだった。

次の日は、T先生を誘って、週末バザー（チャトチャック）へお土産を買いにいった。多くの店が並んでいて、目的を決めて行かないと大変だった。それでも、値切って少しは安くしてもらい、希望のものを買うことができた。夜はニューハーフショー。スタイル抜群で、きれいなお姉さん？達の、面白いショーだった。かくして、本当に中身の濃い、充実したタイ滞在の最後の夜が暮れた。

18日朝8時にホテルをチェックアウトして、タクシーでスワンナブーム空港へ。11:20分バンコクを発って帰りも台北経由で関空着。梅田から夜行バスで松山着朝6:20。うちに戻ったのが7時ちょっと過ぎ。さっそく、午後から仕事だったが、全く疲れもなく、タイでの充実した毎日がいよいよ充電期間となって、新たな気持ちでこれからは送れそうな気がしている。こんな素敵な旅行ができたのも、この旅のすべてをしてくれたYさんによるところが大きい。効率のいい観光ももちろんだが、特に様々な方との素晴らしい出会いをアレンジしてくれたことによる心の充足感が何よりもこの旅を印象づけているのだと思う。Yさんに感謝!!!!!!!!!!!! (T. H.)



お知らせ

・4月例会のお知らせ

4月は遠出します。3月例会では4月4日花見とだけ決めましたが、今年の桜は早く終わりそうだと、都合の悪い会員が出てきたことで、花見ではなく遠出とし、4月13日土曜日朝から、念願の北条のレストラン(CHEZ TACHIBANA)の予約が取れたため、それを核に北条周辺をめぐることになりました。島に渡ってもいいかなと思います。現在参加希望者6名です。出発時間など詳細は、未定です。決まり次第、参加希望者にお伝えします。

綾町と東温市の自然展関係の話ですが、東温市の写真を撮ってこられたOさんに快諾を得ましたので、実現に向けて一歩でも進められればと思います。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000円/年 購読会員 1000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089-964-6956 (林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

手術後まだ癌が残っていて、その後ホルモン療法、放射線治療と続けていた我が夫ですが、やっと癌が消えました。ほっとしました。全く自覚症状のない状態での検査結果に右往左往しましたが、これで心配や不安から解放されました。健康で働けることに感謝したいと思います。一日一日を大切に、今できることは後回しにしないで頑張りたいと思っています。その第一歩として、綾町に住むOさんを3月30日～4月1日会員3名で訪ねます。楽しみです。自然展の話、会報担当の分担の話など、綾支部例会で話し合い、充実した時を過ごしたいと思っています。乞うご期待です。(T・H)